

※ 搬送ベルトに関する情報を無料でお届けします。ご不要の際はご面倒ですが、御社名 F A X 番号をご記入頂き、F A X 0 6 - 6 4 6 5 - 0 7 0 8 へご返信くださいますようお願い申し上げます。

搬送ベルト知っとく情報

(26年/2月)No.265

発行：吉野ゴム工業(株)

@企画 出口

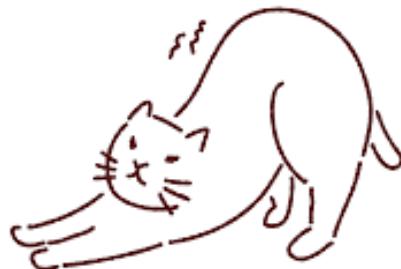
過去の情報は

こちらから

～ベルトコンベヤ設備をお持ちの皆様にお役に立つ情報をお届けします～

◆YOSHINO ワンポイント情報！◆

【「伸び」はない方が良い？】



ベルトコンベヤの日常メンテナンスにおいて、ベルトの張り調整は欠かせません。調整を怠ると走行が不安定になったり、駆動部でスリップが起きたりする原因になります。こうした経験から、「ベルトは伸びない方が良い」と感じておられる方も多いのではないでしょうか。

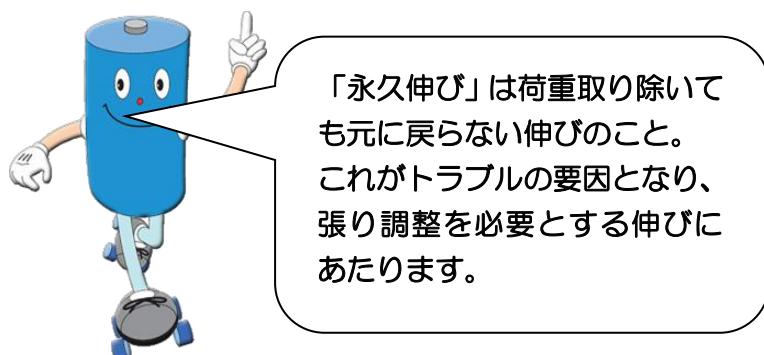
また、ベルトの伸びが大きいとテークアップ代（調整代）を多く確保する必要があり、スペースの制約からも「伸びは少ない方が良い」と考えられがちです。

しかし、一見トラブルの原因に思えるこの「伸び」には、実はコンベヤ本体を保護する重要な役割があります。

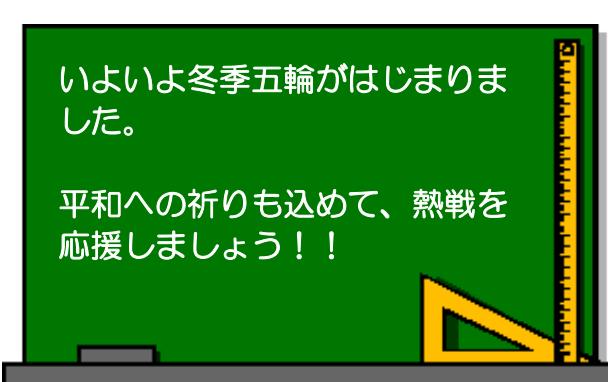
バックナンバー(No.199)でも紹介した通り、ベルトの伸びは「弹性伸び」と「永久伸び」の2種類に分けられます。このうち、コンベヤの保護に寄与しているのが「弹性伸び」です。

「弹性伸び」とは、荷重がかかった際に一時的に発生し、荷重を取り除くと元に戻る伸びのことです。この伸びがクッションとなり、起動時の急激なトルクや、ブーリへの異物噛み込み時の衝撃を吸収することで、機械へのダメージを最小限に抑えてくれます。

理想は、「弹性伸び」のみで「永久伸び」がゼロのベルトですが、現実には困難です。「永久伸び」はコンベヤを守る「弹性伸び」とセットで発生するものと捉えて、日常の張り調整をお願いいたします。



「永久伸び」は荷重取り除いても元に戻らない伸びのこと。
これがトラブルの要因となり、張り調整を必要とする伸びにあたります。



いよいよ冬季五輪がはじまりました。

平和への祈りも込めて、熱戦を応援しましょう！！